

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 鶴見大学歯学部 名誉教授
福島 俊士 先生
2. 演 題 接着ブリッジを考える
3. 日 時 平成29年 6月29日(木)17:00～18:00
4. 場 所 7号館(歯学部校舎棟)2階 第2講義室
5. 抄 録

接着ブリッジは歯質の保全に優れているなどいくつかの利点を有しており、装着後の生存率についても(修理したり、再装着したものも含めて)10年から15年で最低67%、最高95%と報告されており、従来型ブリッジの15年生存率74%と比べて遜色がない。しかし、日本では2008年に前歯部、2012年に臼歯部が社会保険の適用とされたものの、広く普及する状況にはない。今回は演者の臨床を通して接着ブリッジを考えてみたい

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)